

相続の手帖

HOME

ひろせ事務所通信 [ほおむ]

みんなのお悩み

Q & A



財産のありがたが分からない…



Q 亡くなった親がどの証券会社で取り引きをしていたのか、どの保険会社に参加していたのか分かりません。

A 証券会社等から送られてきた書類がないかを探してみましょう。

証券会社の場合「**証券保管振替機構(ほふり)**」へ問い合わせると、取り引きをしていた証券会社名等を確認することができます。

生命保険の場合「**生命保険契約照会制度**」を使うことで、生命保険契約の有無を調べることができます。



知らない相続人がいた…



Q 父が亡くなり、戸籍謄本を収集したところ、私たち以外にも子供がいたことが分かりました。どのように手続きを進めていけば良いですか？

A 知らない相続人を抜きにして相続手続きは進められません。相手方の「**戸籍の附票(ふひょう)**」を取得すると住所が分かるので、まずは手紙などで連絡をとってみるとよいでしょう。どうしても連絡がつかない場合は、家庭裁判所に調停を申し立てる等の方法もあるので、ご相談ください。

デジタル遺品



Q 死後、家族にパソコン等のパスワードを知らせる良い方法はありますか？

A アナログな方法になってしまいますが「**エンディングノート**」などにパソコンやスマートフォンのパスワードを書き記しておきましょう。

重要書類が入った引き出しに保管するだけで、万一の時に家族が見つけてくれるでしょう。



相続人以外にも財産を…

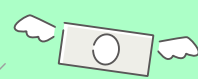


Q お世話をしてくれた親族(相続人ではない)に財産を残すにはどうすれば良いですか？

A 「**遺言書**」を作成しておくことをおすすめします。遺言書がない場合法定相続人(民法で定められた相続人)しか財産をもらうことができません。遺言書にあなたの意思を残しておくことで相続人ではない人にも財産を残すことができます。他には「**生前贈与**」で事前に対策をとっておくのも良いですね。

遺言書

節税したい



Q 相続対策や節税を考えているのですが、何から始めたいのか分かりません。

A まずご自身の資産を把握してみましょう。相続対策で大切なのは①**揉めないこと**。遺言書を残して**争族**になることを避ける。②**納税できること**。相続税は、現金一括納付が原則ですので、現金を確保しておく。それらの対策ができれば、最後に節税について考えてみましょう。「**生前贈与**」や「**生命保険**」で対策可能です。



連載企画

スタッフの気づき

日々の業務の中で感じたこと、学んだことをそれぞれの「気づき」という視点でお伝えしていきます。

事務所通信「HOME (ほおむ)」誕生物語

～It's always darkest before the dawn.～

「事務所通信を握りしめたお客さまがご相談に来られたよ」それは初めて聞いたうれしい反響でした。司法書士事務所のお堅～いイメージを払拭し、もっと親んでももらいたいとの想いで事務所通信の企画をスタートさせたのが3年前。伝わっているのだろうか？本当に知りたい情報をお届けできているのだろうか？全く反応も反響もなく数ヶ月が過ぎ、不安を抱えたまま事務所通信を発行しつづけていた私たちに射した一筋の光、まさに勇気と希望を与えてくれた出来事でした。振り返れば、最初の一年ぐらいは暗闇の中の手探り状態だったように思います。とりあえず「続けることに意味がある」と言い聞かせながら、年4回の発行をなんとか続けてきました。

第5回

気づきニスト

前堀 亜希子

成年後見業務担当 兼
事務所通信(裏)編集長
平成27年入社



おかげさまで、今ではこの記事が良かったあの記事が面白かった、というありがたいお言葉もいただけるようになりました。

今だに毎回悩むのは、記事が誌面に収まりきらないということです。毎号スタッフが担当して書いているのですが、伝えたい！という想いがA4サイズからはみ出してしまいます(笑)

限られた誌面の中で、いかに分かりやすくいい情報をお伝えできるか、そして事務所とスタッフの雰囲気や活動をたくさん知っていただけるよう、今後も自力出版でがんばって参ります！ぜひ引き続きご高覧いただければ幸いです。

タイトルの「It's always darkest before the dawn.」とは「夜明け前が一番暗い」という意味のイギリスのことわざです

女性が輝く職場づくり



香川県が女性活躍推進の新規事業として実施している「メンター制度」のセミナーに参加してきました。

まず「メンター制度」を知らなかった私は「メンター」とは何？から始まりました。先輩社員であるメンター(相談役)が、メンティ(後輩社員)の悩みや問題解決を個別にサポートすることで、職場内の人間関係の構築とキャリア開発を促進する取り組みとして注目されているようです。

セミナーのなかでは実際に離職率が高いという深刻な問題を抱えている企業さんが、この制度を導入し、運用しているお話を伺いました。

幸い私の事務所にはこのような問題はありませんが、職場内でみんながどのような気持ちで働いているのか話し合ういい機会になりそうです。

メンターとして何が出来るのか不安はありますが、事務所の雰囲気やみんなのモチベーションが今より上がるよう、何かの役に立てればいいなあと思います。(大西)

